第４回池田町・地方創生戦略町民会議　議事概要

□　開催日時　　令和２年８月６日（木）14：00～17：00
□　場　　所　　能楽の里文化交流会館２階　大会議室（小会議室・応接室）
□　出 席 者　　委員15名　行政10名　事務局５名
□　傍 聴 人　　町民１名

□ 開会

□ 委員長挨拶

今日は第４回で２つ目の柱である「しごと」がテーマとなっている。働き方改革や働く場をどうやってつくるかなど様々な捉え方ができる大きなテーマでもあるので、今回は少しでも深めて、次回に繋げるようにして頂ければと思う。

□ 確認事項

（１）「しごと」事業について

総務財政課課長が資料に沿って説明

□ 協議事項（グループワーク）（小会議室・応接室）

○「しごと」分野における意見交換

１.「産業創造・雇用創出」について

□ 意見交換内容の発表

（１）グループ１

- 農業については、稲作だけでは経営が厳しいので、農業の多角化、複合化、大規模化でなんとか成り立つのではないか。大規模化は、担い手や各集落の生産組合が頑張っているが、一つにまとまって池田町の一つの農業体として取り組むのがベストな選択なのではないか。
- 林業については、需要が少ないため、仕事が難しいが、「農林業」という名で、農業と林業を一つと考え、「農」「林」が一つの産業になるのが良い。
- 観光サービスについては、様々な新しい人が起業しているが、それぞれ商工会を通して役場の助成を受けている。商工会としては事務局とのつながりはあ

るが、会員同士や他のネットワークとの縦横の連携がないため、連携の強化を図っていきたい。

- 地域福祉サービスについては、介護サービスは他と比べ充実しているが、池田町で生まれ、池田町に来て、最期まで良かったと思えるように、なお一層のサービスの向上を図るためには、国、県、町の力を結集していけば、池田町としての魅力がアップし、創生に向けての個になるのではないか。
- その他について、冠山トンネルは令和４年、板垣トンネルは令和６年、白粟トンネルは令和５年の開通を見据えて、工場でなく、物流センターの誘致ができると雇用ができるのではないか。
- 産業に関わる「人」の課題の解決方法について、経営と雇用は連動すると考え、経営者、出資者の募集とあるが、「田舎暮らし塾」を作り、アナログとハイテクを一緒にした知恵と技の継承をつなげ、生活できる収入を得られる経営を促し、田舎暮らしを満喫し、働いてくれる方を呼び寄せる。

（２） グループ２

- 農業について、基盤整備、適地適作、地域連携が重要ではないか。土地改良を活用して、大規模の圃田場を作り、大規模な機械でできる農業にしたらどうか。基盤整備することで、鳥獣対策にもなる規模の大きい園芸の農作物を作ったらどうか。稲作については、飛び地で耕作している方は移動に時間がかかるので、連携調整して住んでいる地域で行うようにするのも良いのではないか。
- 林業について、山の活用、バイオマス等、雇用の促進プラス環境の町が重要ではないか。池田は空気がきれいで、他とは匂いも違うので、環境を壊さないようにしたい。昔は木を植えて草刈して、大きくなれば売るという経営形態であったが、今は杉材など安いので、山を持っていてもほとんど目を向けてない。作業道を作り、バイオマスとなる木を伐採し、大きい木を育てるのが良い。
- 畜産について、池田町産は肉牛が主に多いが、乳牛を育て、池田の牛乳によってアイスクリームや、バターなどを作れるようにしてはどうか。
- 観光について、おもちゃハウスなど賑わいができ良い方向になっている。木製品は長く使え、子どもがずっと持てる。農家民宿は、移住定住、空き家対策となるのではないか。池田の杉材など使ったおもちゃや食物を妥協することなく作っていったらどうか。ワンポイント・ワンステイは働く人が働く場を動いていくので雇用が生まれるのではないか。
- 地域福祉について、高齢化で需要が増えていく。空き家等を活用してサロンなどするのはどうか。シルバーセンターの代わりに、「ダイヤモンド人材育成センター」を作って、ちょっとした手助け、お助けをして、地域の福祉につなげるのはどうか。

- 産業に関わる「人」の課題の解決方法について、農林業全てに関わるが、次の世代に渡せるよう大規模化が大切ではないか。農業公社に農業学校を作り人材育成を図り、社長を作り、次の後継者も作るのはどうか。今持っているノウハウを地域で活かせる支援を公助や共助でできると良いので、地域を活かして、組織や仕組みを作って伝承していきたい。

（3） グループ3

- 農林業について、農業するうえで環境保全型の農林業を目指す物語、販路拡大や適地適作を伴う園芸作物へのシフトなどあるが、林業は木を切り出せるようになるまで50年以上かかる難しさがある。
- 福祉について、幸寿苑の前の畑でハウス栽培利用者も農業を体験し、若者に来てもらえるような施設、働き方、雇用条件が必要でないか。
- 異業種間で連携することで池田の強みになるのではないか。例えば、チラシデザインや動画撮影などのスキルが他の業種で役に立ち、地元で仕事をまわせるのではないか。今までの流れを変えずに、福祉と農業をマッチング、また、林業と観光をマッチングすることで、様々な仕事をしている人が話をする機会を増やし、一つ上を目指すべきではないか。
- 産業に関わる「人」の課題の解決方法について、例えば、若い人の声を聞いたり、異業種の集まりで他の人の声を聞いたりして、若者に響く言葉とはなど話をする機会を作れれば良いのではないか。また、4～6月は農業、7～9月は林業、10 月は福祉など様々な業種で働いてみるマルチワーク的なやり方はどうか。この受入体制は詰める必要があるが、成功事例が出来れば、こういう話も進められるのではないか。
- 結論としては、異業種交流をし、食・エネルギーの自給自足を目指し、住みたい・働きたい町となることだ。食・エネルギーの自給自足ができれば、人が自然と集まるのではないか。

□ 意見交換・総評

委員長：まず農業について、多角化、複合化、さらには、大規模化いうことだが、農業をどういう方向にもっていきたいのか。

委員： 農業は、基本稲作だが、水稲栽培では機械等の償却にお金がかかるから、基本的に食べていけない。まとめればある程度の数になるから、池田町の農業が一つの団体になることが望ましいのではないか。そのためには、ハウス栽培や冬の除雪オペレーター等複合的な＋αの仕事があれば、働く人もやる気が出てくるのでは。農業の一本化、町の中に一つの農業の会社があるという考えだ。

委員長：町で一つの法人化は池田町農業株式会社のようなものを作るイメージか。

委員：　行政が主体でなく、池田町の中でということ。

委員長：複合化は米と野菜をつくること、多角化は生産だけでなく、加工や販売までを行う６次化のことであり、中規模で付加価値をつけて収益・所得を上げていくことである。したがって、大規模化の意味は、それらが組み合わされた法人化ということで理解した。従来の家族経営の農業と異なる、人を雇う雇用型経営をどれくらいの割合で育てていくか方向づけが必要で、まるごと法人を作ることにより、農業、観光、福祉の「異業種のつながり」は相乗効果が出るのですごく大事だ。それには、普段からのお付き合い、垣根を超えた交流、情報交換が基本的な条件となる。それぞれ農業、観光、福祉の強み弱みをきっちり出し合って、話し合いや整理をするのも重要ではないか。それから、一ヶ所で月 20 万の所得も一つの方法であるが、人によっては４つの業種から５万円ずつ所得を得て生計を立てたいという人もいる。このようなニーズにどういう雇用の場を作って対応するかが重要な課題である。今まで役場を中心に雇用の場を作っていたが、そこから脱却することをそろそろ考えていかなければいけない。

委員：　家族農業をしている人が次の世代に援助してもこっちを向いてくれない場合、どうしたら向いてくれるか。

委員：　補助をあてにすることをまずやめて話をしないといけない。やっていきたいなら応援することにしないといけない。最初からありきだと続かない。

委員長：経営継承は家族か、そんな時代でないから広く求めてもいいと思うのか。

委員：　出来るなら家族の方が良いと思うが、子どもに継がせるのもどうかと思う。

企画幹：子に継がせたくないなら誰が継ぐのか、役場に何とかして欲しいとなっても、正直難しい。経営継承するには、後継者が育たなければならず、日常コミュニケーションをとっていないといけない。日常コミュニケーションなく、経営者が叱咤激励のつもりでも若い人には通じない。農地についても、先祖代々こうしてきたとかこうして欲しいと日頃から話し合うことが大事ではないか。

副町長：池田町の仕事を引き継いでいく人が池田町で住めるような仕事を作るべきだと

いうのが前回の話であったが、今の状況ではおそらく今の親が思うようなイメージの仕事は多くはないのではないか。それを無視して仕事を作ればいいのか、池田町の風土に合わせてできる範囲でコツコツと作っていくのかどちらか。

総務課長：自分の子どもが池田で住んで、池田で仕事をしたい時に、ある程度きちんと収入が得られる職場で本人がやりたいと思う魅力ある職場が池田町だと難しいかなと思う。

教委事務局長：自分が池田町で働いているので、子どもが池田町で働かなくても良いが、池田から近隣の市町で働きに行くスタイルでこれから田や山や家を守ってくれたらと思っている。いろんなスタイルがあって良いし、半農半Ｘなどで働く場も用意しないといけないと思う。

委員：　夫は社会保険完備の職場ではなかったので、私の親は大反対だった。その中で子どもを育てるのも親にとっては何をしているのかという感じだったが、お菓子作りなどコツコツやっていく池田の田舎暮らしをみて、だいぶ親も考えが変わり、こういう生き方があると認めてくれた部分もある。私のような生き方は受け入れられない親は８割いると思う。先が心配というのが本音だと思うので、これなら生けていけるというモデルケースが何パターンかあって、それが軌道に乗れば成果を見せられるので、そういう生き方も認めてくれると思う。

副町長：両方あるということか。

委員：　子どもが選ぶのが一番良い。それが楽しそうだと思ったら私のような生き方をしっかりやっていく選び方もあるし、他所に働きに行きたい、大企業で働きたいという選び方もあると思う。

委員長：結論をすぐに出せないが、こういう仕事についたらこういう働き方があるというメッセージをいくつかパターンに分けて出すことは重要かと思う。

□ 次回の日程について

8月20日（木）にしごと２回目、9月3日（木）になかま１回目を実施予定とする。

□ 閉会